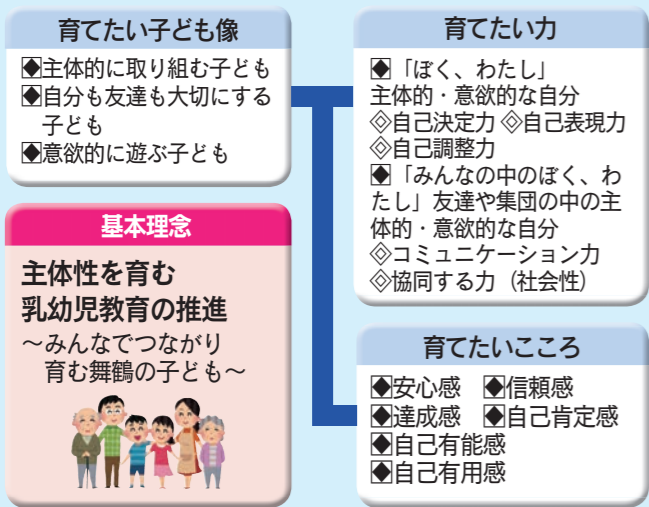


舞鶴市乳幼児教育ビジョンの体系図



豊かなあそびの提供

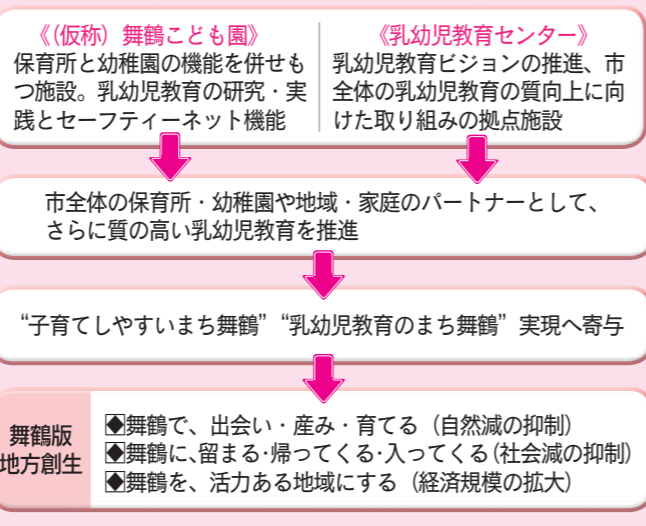


小中一貫教育の教育区分

修業年限	小学校課程6年間						中学校課程3年間		
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
学年区分									
教育区分	前期			中期			後期		
	基礎・基本習得と定着			基礎・基本活用			基礎・基本活用と応用		



乳幼児教育の推進



平成28年度から城北中学校区と加佐中学校区をモデル校として、小学校6年間と中学校3年間の義務教育9年間を見通した「小中一貫教育」をスタート。小学校と中学校が協働して系統的かつ継続的な「義務教育課程のシームレス化（切れ目ない）」を図る教育活動を行うもので、平成30年度までに市内全中学校区で導入することを目指しています。小中一貫教育では、各中学校区で教職員が一体となり、教育目標を定め、児童・生徒の発達段階に応じた一貫性のある学習指導と生徒指導を行います。併せて、これまで以上に児童・生徒が互いに連携・交流を深める活動を行うことで、知（確かな学力）・徳（豊かな人間

教育・保育の提供を行う「(仮称)舞鶴こども園」を平成30年4月に開設予定。

また、保幼小中連携の推進や保育者・教員などの研修の開催、情報発信など、各園・校の活動のサポートを行う乳幼児教育センターを併設し、公立・民間、保育所・幼稚園といった園種の枠を越え、乳幼児教育全体の質をさらに向上させていきます。

切れ目ない教育と夢をかなえる教育

平成28年度から城北中学校区と加佐中学校区をモデル校として、小学校6年間と中学校3年間の義務教育9年間を見通した「小中一貫教育」をスタート。小学校と中学校が協働して系統的かつ継続的な「義務教育課程のシームレス化（切れ目ない）」を図る教育活動を行うもので、平成30年度までに市内全中学校区で導入することを

多々見市長が昨年度から市内の全中学校の2年生を中心に「ふるさと講義」を実施。将来に夢を持つことの大切さや舞鶴市の豊かな自然・文化、多くの働く場があり、交通網の充実などで今後さらに発展しようとしているまちの魅力などを市長自ら生徒たちに語りかけました。

子ども達が善悪の判断を持ち、自らを律する「自律」と、社会に貢献し力強く生きる「自立」を兼ね備え、「ふるさと舞鶴」を愛し、夢に向かって将来を切り拓く子ども達の育成に今後も努めていきます。

市長の「ふるさと講義」

子ども相談の総合窓口

7月4日から子ども・子育てに関する相談と支援の窓口を集約した「子どもなんでも相談窓口」を中総合会館に開設。保健センターや子育て支援センターとも連携し、妊娠期から出産期、子育て期、学童期、思春期、18歳までの子どものさまざまな相談に切れ目なく対応します。子育てに限らず、非行や不登校、児童虐待など、子どもに関する悩みや相談にも保育士、社会福祉士、教員経験者など分野の専門職員が総合的にサポート。安心して子どもを産み育てられる環境づくりに努めています。

子育て世代の交流と豊かなあそび

近年、人と人が触れ合う機会が減少し、子育て家庭の孤立化が心配される中、子育て中の親同士が親子で気軽に集い、つながり合うことができ「子育てひろば」を市内6か所で開設中。親と子どもの遊びの場を提供しているほか、子育てに関する相談や情報提供などに取り組んでいます。これら安心して子育てができる環境の充実を図るとともに、「子育て交流施設あそびあむ」で子どもの成長にとって大切な「豊かなあそび」の提供やさまざまな世代の交流促進に努めています。

育てたい子ども像「乳幼児教育ビジョン」

市では平成27年8月、ふるさと舞鶴を愛し、夢に向かって将来を切り拓く子どもを育てるために「舞鶴市教育振興大綱」を策定。「0歳～15歳までの切れ目ない質の高い教育の充実」を基本理念とした施策の推進を図っています。中でも、0歳～就学前の乳幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎が培われる最も大切な時期。この乳幼児期の終わりにまで「育てたい力」や「育てたいところ」を明示した「舞鶴市乳幼児教育ビジョン」を平成28年3月に策定しました。保

育・教育の質の向上に向けた取り組みや保幼小連携の研修など、発達段階に応じた豊かな遊びや生活、体験を通じて学びや育ちの土台づくりを進め、子ども達の健やかな成長を地域全体で支援しています。

乳幼児教育の拠点園として

少子高齢化や核家族化の進行に伴う保護者の保育に対するニーズの変化、保育の量・質の充実を掲げる子ども・子育て支援新制度の施行など、子育て支援施策に関わる環境も多様化してきました。これらのニーズに的確に対応するため、施設の老朽化が著しくなった舞鶴幼稚園と西乳児保育所の機能を集約し、0歳～就学前まで一貫した



▲市内全ての中学校で実施した市長のふるさと講義



▲7月4日に開設した子どもなんでも相談窓口

子育て環境と質の高い教育の充実

家族や地域にとってかけがえのないタカラモノである子ども達。本市の子ども達が充実した環境で育ち、学ぶことは、私達が住む「ふるさと舞鶴」の未来を創造することにつながります。シリーズ市政の「今」。第35回は、子育てしやすい、質の高い教育を目指したまちづくりについてお知らせします。

